

謹賀新年

おかげさまで無事に新年を迎えることが出来ました

本年もご支援よろしくお願ひ申し上げます

はぐるまの皆さん

新年おめでとございます

昨年も前年に引き続き生産活動に販売活動に皆で力をあわせてがんばりましたね。

私達の生活向上、そのための条件整備等を求めて仲間達を中心に各種集会、催しに参加したり、勉強したりして外部にアピールしましたね。町の人々の理解・協力等も徐々にではありますが得られつつあるのではないかと思います。

さて、二〇〇八年を迎えた今年はどうでしょうか。本県でいえば昨年からの続きで緊急のものとして「小児、一人親家庭、重度身障者」に対して助成が見直（改善）され、一部負担金を課せようとする動きが県当局にあり、これを今年の十月以降に導入しようとしている等、予断を許さない状況があります。

加えて重障害者の場合、新規六十五歳以上の者はこれまでの医療費助成が受けられなくなり、所得の制限も設けられようとしています。新年早々私達の前には厳しい現実が立ちただかっていますが皆で力を併せ、これらをクリアーしながら「はぐるま」らしく力強く前進しましょう。

社会福祉法人 はぐるまの会

理事長 澤 俊男

平成二十年一月

はぐるま

きょうされん全国大会報告

No.36

2008年1月18日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会
後援会

川崎市多摩区菅馬場1-18-17

Tel 044-946-1308



昨年の全国大会は愛媛県でしたが、今年は東京で開催されるため、仲間会は全員で参加したいとの要求があり、職員も含め総勢50名で参加してきました。セレモニ一のクリスマスソングは手拍子や体を揺らして舞台の仲間と一緒に楽しみ、難しいかなと思った、柔道の山下泰裕さんの90分の講演も静かに聴いていました。仲間を感じるを聞いたところ「山下さんにも、自閉症の子どもがいることは、びっくりした」と内容を理解しているようで、テレビで見る人の話を聴くのも、よい刺激になるようです。また実行委員長の石井 めぐみさん（笑ってよゆっぴいの著者）の仲間達に

「皆さんの毎日の活動は、きつと地域を変える力となります。自信を持って頑張ってください」との励ましの言葉には力強さを感じました。

仲間自治会事務局 分科会報告

十二月二十二日(土)は「きょうされん全国大会分科会」に出席するため四ツ谷にある上智大学に行つて来ました。第一作業所からは石暮(由)、佐々木、第二作業所から山田、長原、工房からは落合、菅工舎から長谷川、佐藤の計七名の事務局メンバーで行つて来ました。

今年きょうされんは『利用者部会』ができて、私たちは、その分科会でレポート発表することになっていました。

テーマは、『自治会活動登山活動』です。会場には北海道、熊本、横浜、鳥取、福岡など遠くからもたくさん仲間が来ていて、教室は立ち見も出るほどでした。私たちの発表は、何回も練習していたので、本番はメモを見ないでいえました。どきようがついていたと思います。佐々木君は、はぐるまの5つ目標をしっかりと声で言いました。電車の中でも駅のホームでも練習して頑張っていました。

発表にない「登山に行くのに、お金はどうしてますか?」との質問がありました。

私たちは「物品を売ったり、給料をためて、自分たちでかせいでいます」と答えました。ほかに「マラソンは、どこを走ってますか?」「仕事はどのようなものをやってますか?」など聞かれました。

広島の作業所で四つの部会を自治会で作つて新聞を出したり、地域と交流したり夢を語ったりしているところの情報を聞きました。一度行つてみたいと思いましたが、その新聞も読んでみたいです。

他には横浜の作業所から「職員は給料ドロボーだ!」「話を聞いてくれない」などの発言がありました。発表したい人がたくさんいて、最後の最後まで手が上がり続けていました。時間がたりなくて司会の人困つて「来年また広島で会いましょう」と言っていました。

これからは、地元の川崎・横浜で交流を続けていきたいと思えます(仲間自治会事務局全員でまとめました)

一言コメント

「職員は給料ドロボー」の発言は様々な意見が飛び交い活発に意見交換がされました。

ドロボーを契機に交わされた意見の一部

「職員は自立支援法になつてから特に話が出来なくなつた」

「遅くまで働いている職員がかわいそう」

「自立支援法に立ち向かうためには、職員と仲間と力を併せないとダメだと思います」

はぐるまの仲間達も自治会が、(職員会とどのような関係構築しようとしているのか)と言う発言があれば、とっても参考になったのにとの思いと共に、改めて職員の役割について考えさせられた分科会になりました。仲間は自治会役員も、このような場所で発言する力が付けば自治会の更なる発展に結びつくのだろう、という次へのステップが見えました。

きょうされん全国大会に

はぐるま仲間全員が参加

第三十回きょうされん全国大会は昨年の十二月二十一日東京ビックサイトで開催されました。

それを迎えるにあたり仲間自治会では行き方、帰り方、電車の時刻、迷子ポイント、トイレや昼食の場所等の確認をする下見を行い大会に備えました。

仲間達は下見の成果が上がり往復、会場等で作業所毎の移動にも怪我や事故もなく無事にやりきることができました。

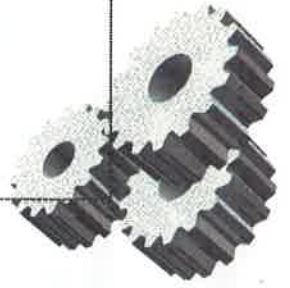
今回この大会で私が一番印象に残つたのはスピーチコンテストでした。そこでは障害があつても、少しづつ自分を受け入れていこうとする前向きな姿や、沢山の困難にあいながらも打ち負かされず、今現在自分のいる作業所を愛す姿が語られていました。

それらを通して仲間達と一緒に過ごせることは、この上ない幸せなことなのだと思わせてくれたのです。これが私にとつての大収穫でした(星出記)



ビックサイトにて工房の仲間

はぐるま後援会だより



はぐるまの会 後援会事務局

〒214-0004 川崎市多摩区菅馬場1-18-17

TEL 044-946-1308 NO, 7

2008年1月18日 発行



今年は『子年』行動力と財を成すと言われませんが、会員の皆様にとっても、よい年でありませうよ！
今年もよろしく、ご支援のほどよろしくお願い致します。

後援会役員会が開かれました

十二月十二日 第八回 役員会にて
後援会事業推進として、前回話し合いました

二つの事業についての経過報告がありました

社会貢献自動販売機設置について

設置候補地2ヶ所について検討しました。

みどりホーム敷地隣

・ホームに近すぎて、夜中に缶の落ちる音は仲間の生活に支障をきたすので、もう少し離れた場所を検討する。

よみうりランド駐車場隣

・車の出入りを考えると、適切な場所が取れない。等の問題点あり、まだ確保されません。引き続き設置場所を探す努力をいたします。

ふれあいチャリティーコンサートの協力依頼

「アツキヨ」コンサート開催は協賛団体の数が

足りず具体的な予定が立たないと、プロダクションから連絡をいただきました。

かなり難航しているようで、すぐの開催は難しいようです。

☆ 会員の皆様に、華々しい報告ができず大変申し訳ありません。

利益を生み出すことの難しさと、センスの

なさに「急がばまわれ」とか「七転び八起き」とか「自励」しながら……頑張っています。

役員改選について

第一期の役員が来年度改選されます。

会長の金子さんには全員一で続投をお願いし、快く引き受けてくださいましたので来期も、

金子会長にお世話になります。

またはぐるまの理解者であり、協力をいただいています巻山さんも、引き続き受けていただきました。貴重な時間をはぐるまの為にいただきますこと感謝いたします。

親の会の代表や職員会の代表については、各会です。

会です。これから人選していただくことになりました。

来年の四月に新メンバーが揃いますので、次号で報告いたします。

職員会より

登山合宿の決算の結果、後援会費から援助していただいた不足分の30万円は、使わずに済みました。

医薬品を作業所の持ち出しにしたり、行動食を必要最小限にしたり、報告集(はぐるまだより)のページを削減し印刷代を下げたり等、考えられる限りの節約をした結果、当初の予算を削減することができました。

今後 行事の見直しや、実施の仕方等工夫し、仲間の負担が大きくならないよう努力いたします。ご協力ありがとうございました。

平成20年度は、はぐるま創立25年目に当たりますので、毎年行っています「はぐるま全体会」を「25周年」を念頭に入れた会にさせていただきます。

その際は皆様のご協力をいただくこともあるかと思われれますので、よろしくお願いいたします。

新規会員・継続の ご協力 ありがとうございます

新規ご入会(敬称略)

山河 浩美

更新

矢澤 静江

長原 純一

長原 進

濃沼 功

遠井 成夫

遠井 洋文・恵子

野瀬 治

野瀬 治雄

寺川 恵美子

高木 綾

渡辺 明雄

竹下 文子

大野 和枝

伊藤 烈

橋本 妙

法人会員

遠井保険事務所

ブルーム

寄付金

くさぶえの会 稲川

落合 由貴

はぐるま職員会

「花ハウス」物品売上寄付

パッチワーク教室キルトストーリー

野瀬 佐知子／丸山 玉江

下築 京子／高木 チトセ

伊藤 祥子／竹内 忠也

※販売コーナーに手づくり製品を仲間の授産のためにと売上を寄付していただきました。

稲川ユミ／東郷愛子／長原絹代

現状報告

個人会員 260口

法人会員 8口

今年度累計 885,545円

総累計 2,123,895円